

# 司書合格体験記

法学部政治学科 西村 清宏

私はこの度、名古屋市から司書として内定をいただきました。私が司書を目指した理由は大学で司書課程を学び、司書に興味を持ったためです。ただ司書に絞っていたわけではなく、民間企業や公務員も併願して就職活動を進め、1年目の就職活動に失敗したため、約2年に渡って就職活動を行うことになりました。ここではこういった経験も含め内定をいただくまでの過程を報告します。

## 1 次試験対策

教養試験対策としては1年目の就職活動がほぼ終了した大学4年生の10月から学内の公務員対策講座を受講しました。授業外で特に教養試験対策は行いませんでしたが、私が受験した都道府県、地方市町村等の公務員試験は民間企業の筆記試験と共通する問題も多かったため、民間企業を受験した際に行ったSPIなど筆記試験の勉強が非常に役に立ちました。

専門試験対策としては『司書もん』を主に活用しました。基本的には問題を解くことよりも解答を覚えることを重視し、移動時間など空き時間には解答の部分をこまめに読んで覚えるようにしました。また司書課程のテストを受ける際に作成した想定回答集なども活用しました。

## 2 次試験対策

私が今回就職活動を行うにあたって実感したのは、2次試験以降の面接対策の重要性です。公務員でも面接などの内容、難易度ともに民間企業と大きな差はなく、私自身1次試験は大半の自治体で突破することが出来ましたが、内定に至ったのは名古屋市のみでした。内定をいただいた名古屋市は2次試験までしかありませんでしたが、ほとんどの自治体で3～4次試験まで行われ、個人・集団面接のほかグループ・ディスカッションなども複数の自治体で経験しました。

名古屋市では3人の面接官との個人面接が30分ほど行われました。事前に提出する履歴書で志望動機、自己PR、グループでものごとを成し遂げた経験について300字程度で記入しており、基本的にはこれに沿った質問が行われました。

特異な質問としては「名古屋市が行っている図書館の中長期運営計画について、自分なりに概略をまとめて述べてください」というものがありました。図書館の運営計画などは基本的に各図書館のホームページで公開されているため、受験する前に一読することをお勧めします。

就職活動を振り返って、2次試験対策に特に重要だと感じることは以下の3つです。

①：受験する図書館の情報を多く集め、他の図書館と比較すること

志望先の情報を集めることは面接対策に非常に重要ですが、受験先だけでなく複数の図書館の情報を集め、比較することでより受験先の特色を知ることが出来ます。また余裕があれば、他の業種とも比較し司書を志望した理由をより明確化しておく、面接でより自信をもって受け答えすることが出来ます。

私が受験の際に主に活用したのは図書館のホームページで閲覧できる運営計画や図書館の沿革、活動報告などと、図書館に関する条例、自治体の組織図です。後者に関しては基本的に自治体のホームページで閲覧することが出来ます。条例や自治体の組織図から、自治体の中で図書館がどういった上部組織の管轄下にあり、どのような法規に沿って運営されているか知ること、運営計画等で示されている理念や活動をその根拠も含めより深く理解することが出来ました。

また、受験予定の図書館にはできる限り直接訪れるようにしました。受験を機会に各地の自

治体や図書館を訪れたことで、当該の図書館だけでなく他の図書館を受験する際にも非常に参考になりました。

②：エントリーシートは余裕を持って制作すること

多くの自治体では受験申込の際か2次試験の前に、エントリーシートの提出を求められます。多数の質問がある場合や、「自治体の課題を述べ、職員としてあなたはその課題解決のためにどのように行動したいと考えますか？」といった民間企業より難しい質問を求められることも多いです。また制限字数も数行で回答する自治体から1000字を求められる自治体まで幅広くあります。これらの質問に回答するにはかなりの時間がかかるうえ、複数の自治体で提出期限が重なることも多く最悪の場合受験を見送らざるを得ないこともあります。このため少なくとも提出期限の1月前からエントリーシートの作成に取りかかり、提出期限の1週間前には完成させることを目標にしていました。

また自己PRや学生時代に力をいれたこと、大学での学びなど共通することが多い項目は早めに文案を作ってキャリアセンターなどに相談し2月頃までには400字程度のを直ぐにエントリーシートに書ける状態にしておくとかかなり楽になると思います。

③：図書館に限らず、民間企業などで、できる限り多くの面接、グループ・ディスカッション等を経験すること

面接、グループ・ディスカッションなどは、繰り返し経験すると必ず最初の頃よりうまく表現することが出来るようになります。エントリーシートや資料の読み込みなど机上の対策だけを行って、本命の受験に臨むことは非常に危険で、ほぼ上手く話することが出来ずに失敗します。公務員の1次試験が始まるまでの3～4月頃に選考を進める民間企業も多数あるので、出来ればいくつかの企業を受験して、実際の面接やグループ・ディスカッションの経験を積んだうえで、本命を受験した方が良いです。また就活は企業の内実を知ることが出来る数少ない機会なので、有名企業など気になる企業の説明会や選考には積極的に参加した方が、思いがけない知識を増やす機会を得ることが出来ます。

## 2年目の就職活動について

最後に2年目の就職活動についてまとめておきます。私が1年目の就職活動を諦めたのは10月頃で、当初、留年して学部に残すことを検討しましたが休学届の提出期限を過ぎてしまっていたため、急ぎよ同志社大学の大学院に内部進学することになりました。

大学院に入学後、春学期を休学して就職活動に臨みましたが1年目よりかなり厳しい状況となりました。

1年目の場合、民間企業は大手企業を含め大半が面接まで進むことが出来ましたが、2年目に入ると逆にほとんどの企業で書類選考の時点で不合格となりました。

司書の方は民間ほど格差を感じませんでしたが、1年目の就活を失敗したことを含め精神的ダメージは想像以上に厳しく、幸い家族や友人が支えてくれたおかげで何とか乗り切ることが出来ました。

また大学院に在籍していることを伏せて、就職活動に臨みましたが、名古屋市に内定後、改めて正式な履歴書を提出することになり慌てることになりました。正直に申告したところ大きな問題にはなりませんが、各方面にご迷惑をおかけすることになったため、例え申告しにくいことであっても、正確に履歴書は記入しなければならないと痛感しました。

以上、私の就職活動について振り返らせていただきました。この体験記が司書を目指す皆さんの参考に少しでもなれば幸いです。最後にこれまでご指導くださった先生方、支えてくださったDUALISの皆さんに改めて感謝申し上げます。

文学部哲学科卒 江 藤 由香里

2019年度卒業生の江藤と申します。2020年4月より久御山町立図書館で司書として働くことになりました。採用通知を受けるまでの経緯について、この場をお借りして振り返ってみようと思います。正直なところ、今回の試験で合格通知をもらえると思っていなかったのですが、自信をもって人にアドバイスできる立場ではないのですが、何かの参考になれば幸いです。

私は在学中に正規の就職先が決まらず、卒業後はNDL 関西館で非常勤職員として働きつつ試験の勉強をしていました。フルタイムの勤務ではなかったのですが、働きながら勉強したり試験を受けたりすることに特段苦労はありませんでした。実家暮らしのため、収入についてはさしあたって心配する必要がなかったことが大きいです。司書の採用情報は司書課程の卒業生向けメーリングリストで把握していました。自宅から通えるところを希望していたこともあって、受けられる機関が少なく、最終合格通知を受け取った時点で司書の採用試験を受けていたのは久御山町だけでした。

教養試験については、3年の秋学期から公務員講座を受講し対策していました。授業の関係もあって講義は半分も出席できませんでしたが、学内で模試が受けられたりネットで授業の動画が見られたりといったサービスがついていたので、自分としては受講しておいて良かったなと思います。卒業後はその時もらった問題集を復習していました。勉強していたのは主に数的処理で、社会科学は手を付ける程度、自然科学は完全に捨てていました。文章理解は大学受験の時の知識で十分だと感じたので特別に勉強はしませんでした。

専門試験の勉強については、図書館情報学の知識を問われる試験がなかったのが省略します。過去の合格体験記が詳細に書かれていて大変参考になるとと思いますので、ぜひそちらをご覧ください。

面接試験については、採用後に働くことになる図書館に訪れ、どう感じたかを言えるようにしておくことは非常に大切だと思います。私はこれを怠り面接の印象がかなり悪くなってしまったと感じました。加えて、図書館の運営方針等を読んで、ここで自分がどのようなサービスができるか、あるいはしてみたいかを考えておくこともよいと思います。これについてはDUALISの活動として様々な図書館を見学してきたおかげで、苦勞せず答えることができました。NDLが運営しているカレントアウェアネス・ポータルにも多数の事例が紹介されていて、参考になりました。

以上が私の採用までの経緯です。私の場合はどうしても司書になりたかったというよりも、選択肢の一つとして司書も考えている、という姿勢で取り組んでいた就職活動だったので、司書としての就職を強く希望されている方には不十分なものだと思います。それでもこのような形で就職が決まったのは、運はもちろんですが、DUALISに所属していたことで自然と知識や経験が得られたからなのかなと考えています。1年生の時に私が司書課程を受講していると知った友人に薦められて資料室の扉をたたいた時には、こんなことになるとは思いませんでした。誰でも入れますし、馴染めますので、気軽に参加してみてください。最終的に宣伝になってしまいました。皆様の就職活動が実り多きものになるよう応援しています。

文学部国文学科卒 生 田 奈津実

私は2018年8月より滋賀県守山市立図書館で正規採用職員司書として勤めております。採用にいたる経緯をここにご報告いたします。

学生の頃は、図書館情報学を修め資格は持っておきたいが、司書はそう簡単に誰でもなれるような職業ではないとぼんやりと認識しており、正直なところ、なれたらいいなとは思いますがそれだけを一筋に目指すのは現実的ではないと考えていました。3年生になってから、勉強をしておくのは損ではないだろうと考え、DUALISの勉強会に参加しはじめました。

いざ就職活動をするときには、他に興味のある仕事があったこともあり、一般民間企業の採用試験に参加するのみで、公務員試験や司書採用試験などは一切受験しませんでした。幸い希望する会社の希望する職種で内定をいただけたため、大学卒業後はその会社へ就職しました。本にかかわる仕事をしたかったことと、昔から出版社への憧れがあったことから、専門出版社の営業として働いていました。

その会社で約1年と3カ月ほど働いていましたが、私の個人的な事情があってその仕事を辞めなければならなくなりました。次は何の仕事をしようかと再就職活動をはじめ、やはり司書の仕事、またはそれに類するような本にかかわる仕事をしたくて探していたとき、偶然目にとまったのが、DUALISの卒業生メーリングリストでご案内いただいた守山市立図書館の正規採用職員司書の募集でした。

2018年11月の新図書館開館に向けた中途採用で、専門試験のない、いくらかは簡略化された試験だったのではないかと思います。やはり倍率は高く採用にいたるのは難しいと感じました。しかし、ずっと考えていた司書という仕事のことや司書として目指したいこと、図書館司書資格過程やDUALISにいるなかで学んだことなどが自然と生きてきて、面接ではきちんと伝えたいことを話せたと思います。結果、光栄にも採用していただくことができました。

私が司書を目指して具体的に就職活動をした期間は、前職を辞めることが決まってからの約2ヶ月という短さで、なかなかないまれなことだと思います。専門試験もなく実務経験が重視されることもなく採用にいたりましたので、実際に日々の業務をしながら、司書としての経験や知識を積み重ねているところです。それでも、図書館司書資格課程やDUALISで学んだことは、私のなかの大切なところにしまっていて、それらをふとしたときに思い出したり、そつと揺り起こしたりしているのだと思います。おそらくモデルケースになるような典型的な例ではないと思いますが、何か少しでも、図書館司書を目指される皆様のご参考になれば幸いです。